

神奈川県原水協通信

優しい愛は“希望”

～いわさきちひろ生誕100周年のつどい～

ちひろの絵とちひろを語る

2018.11.11 日本丸メモリアルパーク会議室

平和で、豊かで、美しく、可愛いものがほんとうに好きで、
そういうものをこわしていこうとする力に限りない憤りを感じます



記念講演をする竹迫祐子さん

“私とちひろ”トーク

講演、トーク、ワークショップに感動広がる

今年は、いわさきちひろ生誕100年。県原水協では、11月7日、記念行事として「ちひろの絵とちひろを語る」つどいを開催しました。短期間の取り組みでしたが、全県から50人が参加しました。

記念講演は、ちひろ美術館主席学芸員の竹迫祐子さんをお願いしました。竹迫さんは、約100分にわたってちひろの絵の見方と魅力、人・ちひろについて戦前戦後の生きた跡をたどりながら語られました。竹迫さんの柔らかいタッチの講演に多くの方が引き込まれ、あっという間の100分でした。そして参加者は、改めてちひろの絵の素晴らしさと新しい発見、ちひろの生き方は絵と深い関係があることを知り、「さらにちひろが好きになった」「また美術館に行きたい」という人もいました。当日、いづみ書店がちひろ関係の本を用意しましたが、多くの方が本を買い求めていたようです。

つどいでは、「私とちひろ」のトーク、前進座の演劇“ちひろ”の脚本を書かれた朱海青さんのお話もありました。

つどいの終了後には、「古いちひろカレンダーを使ったバック・封筒づくり教室」も行われ、参加者は熱心に作製し持って帰りました。



鶴田一子さん



長谷川径弘さん



大越文さん



前進座・朱海青さん

朱海青さんのお話（前進座の脚本家俳優）
松本猛さんの協力を得ての脚本づくり。松本さんから「芝居としておもしろいものにしてください」と言われたので、ちひろは絶望です。演劇の期待もありません。神奈川の公演は千秋楽です。演劇を知りたいから希望を表現できると思えます。演劇を知りたいから希望を表現できると思えます。演劇を知りたいから希望を表現できると思えます。

参加者のみなさんの感想文から

参加されたみなさんからたくさんの感想文が寄せられました。その中のいくつかをご紹介します。

- ★いわさきちひろさんがどんな思いで絵を描いているのか、みなさんがどんな風に「ちひろ」との出会い、本に親しんできたのかが感じられるつどいでした。良かったです。
- ★竹迫さんのゆったりした語り口で、ちひろさんの絵を描く思い、そして生涯をお聞きして豊かな時間を過ごさせていただきました。
- ★ちひろの絵の観方がわかり、今後じっくりとカレンダーの絵を見たいと思いました。（今までは、ただかわいい子、ホッとさせる絵くらいの受け止め方でしたので・・・）
- ★絵本やカレンダーで、いつも私のそばにあったちひろの絵。でも、彼女がどのような人生を歩んだのか今日、初めて知りました。水彩やパステルで描かれるやわらかなタッチの絵の奥には、情熱と平和への願いがあふれているのだと思いました。
- ★女性・母親・画家として苦悩しながら子供の絵を描いてきたんだなあと改めて感じました。新婦人の創立者の一人として人。あらためて素晴らしい人だったんだと思いました。
- ★とてもよかったです。今まで知らなかったちひろさんの素顔を見た感じがします。どんなときにも、心にゆとりをもって進めていくことが必要だと思いました。本当に考えさせられました。常にちひろさんのような気持ちで何事にも向かって生きたいと思いました。
- ★生誕100年にふさわしい内容でした。12月25日の前進座の「ちひろ」も楽しみです。



ちひろバック作成中



完成したちひろバック